

室内のデザインは一画ごとに

さらなる伊豆の魅力も伝えられ
るはず」と力を込めた。

いたたいび
いい思い出に
なっていた。

足立区 ひとり親家庭実態調査

来月から 8年かけ 就労、所得など聞き取り

ひとり親家庭がどんな支
援を必要としているかを把
握するため、足立区は来
月、区内二千世帯を対象に
した生活実態調査を始め
る。就労や所得、進学状況
などに加え、家庭での日常
的な体験などを隔年で八年
間にわたって聞き、効果的
な施策を探るための資料に
する。

聞き取りをする。聞き取り
は親だけでなく高校生以上
の子どもにも行い、より正
確な実態把握に努める。

回答者に先入観を持たせ

ないため、具体的な質問項
目は来年五月の報告書発表
まで公表しない。親子支援
課の担当者は「ひとり親だ
と子どもはどんな体験が不

足するか、具体的に知れた
い」と話した。

対象の二千世帯は、一定
の所得以下で児童育成手当
を受給している約九千世帯
から抽出する。約五百世帯
いる父子家庭からは二百五
十世帯を選び、母子家庭と
は異なった質問の調査票を
渡す。外国人家庭への質問
も同様に異なる。

(神谷円香)

発展途上国の子どもたち
を支援する国際非政府組織

(NGO)「プラン・イン

ターナショナル・ジャパ

ン」が主催する「夏休み読

書感想文コンクール201

6」高校生の部で、都内か

ら藤沢息吹さん(二〇)夫妻

中野高一年(一七)が優秀賞、深

見亮太さん(一七)が学習院高

三年(一六)が特別賞を受賞し、

都内で開かれた表彰式に臨

優秀賞の藤沢息吹さん(二〇)と特別賞

の深見亮太さん(一七)、中央は角田光

代審査員長(プラン・インターナ

ショナル・ジャパン提供)

んだ。

二人とも課題本の中か

ら、差別に苦しむ途上国の

女の子を取り上げた「Be

cause I am a

Girlーわたしは女の

子だから」を題材に選ん

だ。感想文で、藤沢さんは

「当たり前だと思っていた

悪い伝統を変えようとする

勇気を持ちたい」と記し、

深見さんは「本を読んで夜

眠れないほどの衝撃を受け

た。この本を友人にリレー

する」とまとめた。

コンクールは三回目。十

代の若者に途上国の厳しい

現状への意識を高めてもら

うのを主な目的としてい

る。今回は全国から中学生

千三百四十五人、高校生五

百八十八人が応募した。

審査員長で作家の角田光

代さんは総評で「学校とい

うものがそもそも存在しな

い場所がある。自分が見て

いる「ここ」だけが世界で

はないと知ることが重要」

と語った。

(梅村武史)

板橋の男女

病氣、幸

板橋区の民家

に見つかった里

について板橋署は

行政解剖の結晶

病氣や衰弱で死

性が高いと判

は、この家に住

(九七)と妻(九七)

特定を急いでい

署によると、

階の居間に敷か

うつぶせで倒れ

程度たつていた

衣の乱れ、室内

た跡はなかった

暮らしたとみられ

ど前に二人で銭

る姿や、十七口

で歩くのを近所

けていた。

きざよう二

浅

開運や商売

近藤弥生区長が二十二日
の定例会見で発表した。
「親には経済的な基盤づく
りができるような、子ども
には一般の家庭ならできて
いる体験ができるような支
援につなげたい」と述べ
た。

「勇気持ちたい」「衝撃受けた」

読書感想文 入賞の都内高校生2人



優秀賞の藤沢息吹さん(二〇)と特別賞
の深見亮太さん(一七)、中央は角田光
代審査員長(プラン・インターナ
ショナル・ジャパン提供)